

# みんなで繋ぐ笑顔の輪

～主体的な活動を通して育まれる、科学する心の育ちと道筋～



## 目 次

1. はじめに ～みなみ若葉こども園が考える『科学する心』について～・・・ P 1
  
2. 実践報告 1・2歳児 事例『心躍る出会い♡』・考察
  - 1歳児事例 「偶然の連続」・・・ P 2
  - 2歳児事例 「発見がいっぱい」・・・ P 3
  - 1・2歳児考察・・・ P 4
  
3. 実践報告 3歳児 事例『自分で作った物って特別☆』・考察
  - 場面① 「ドーナツ作り」・・・ P 5
  - 場面② 「何色にしようかな？」・・・ P 5
  - 場面③ 「あれ？粘土が固くなっていく～」・・・ P 6
  
4. 実践報告 4歳児 事例『作り進める楽しさ・面白さを感じて』・考察
  - 場面① 「気持ち高まる素材との出会い」・・・ P 7
  - 場面② 「イメージを広げて やってみよう!!」・・・ P 8
  - 場面③ 「憧れの年長さんと一緒に」・・・ P 9
  
5. 実践報告 5歳児 事例『お神輿作りに挑戦』・考察
  - 場面① 「ワクワク探検！どんな素材がいいかな？」・・・ P 10～11
  - 場面② 「みんなのアイデア大集結」・・・ P 11～12
  - 場面③ 「見せて！教えて！それなあに？～地域の方の力を借りて～」・ P 12～13
  
6. まとめ・・・ P 14～15
  
7. 課題と今後の方向性・・・ P 15

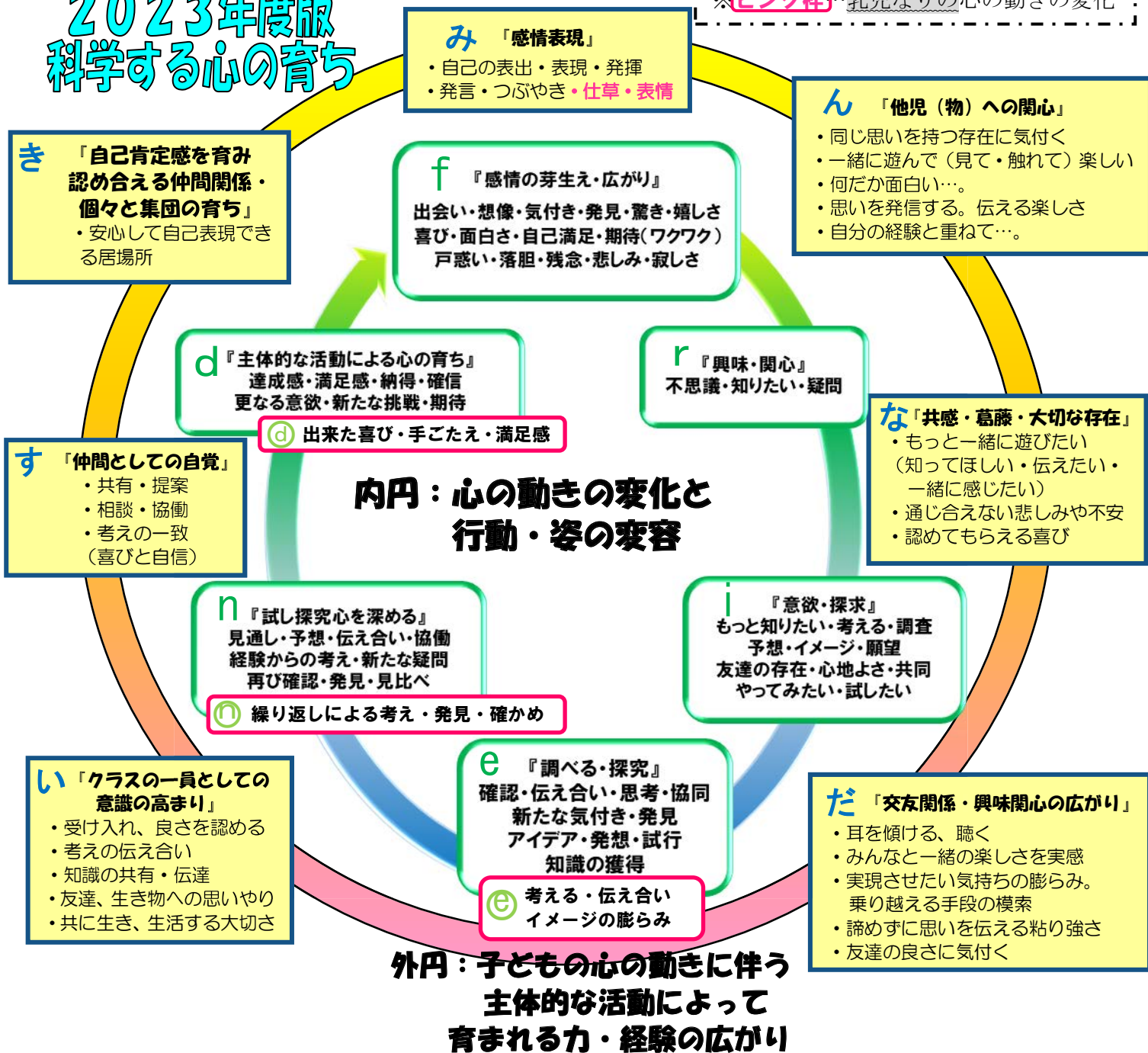
# 1. みなみ若葉こども園が考える「科学する心について」

「科学する心」とは、日常生活の中で子ども達が興味関心を抱いたことに自ら関わろうとし、「なぜ?」「どうして?」と不思議さ・疑問を感じたり、「～かもしれない!」「やってみよう!」と予想・試そうとしたり、実践して様々な思いを巡らせる心の動きだと考える。その心の動きを友達や保育者に伝え、思いを共有することで更に興味や視野が広がり、行動に繋がっていく。意欲が高まり、新しく生まれる発見や疑問を友達と一緒に考え、共同して遊びを深めていく姿が「科学する心」の原点となり、心の動きが豊かに行き来しながら繰り返し経験し感じたことを表現することで「科学する心」が育つと考える。

昨年度は“ねえねえ あのね”と題し、1・2歳児の心の声に着目し、低年齢児の科学する心の育ちや保育者の役割について深めた。低年齢からの様々な出会いや発見の積み重ねが土台となり、幼児期の好奇心・探求心に繋がっており、1歳～5歳児までの連続した科学する心の育ちをまとめ、保育者間で更に理解を深め合いたいと願い、取り組みを進めた。園内研修などを通し、保育を見合う中で、保育者の理解・接し方の違いで、子どもの活動の広がりが変わってくるのが目に付き、もっと様々な視点で子どもの姿を捉え、考えを出し合い、子どもの主体性を尊重した保育を目指していきたいと考えている。今年度は保育者の視点や働きかけに着目し、科学する心の育ちを探っていった。

※**ピンク字**…今年度より加わったもの  
 ※**ピンク枠**…乳児年りの心の動きの変化

## 2023年度版 科学する心の育ち



<p>子どもの心の揺れ動き</p>	<p>活動の様子</p>	<p>保育者の視点 働きかけ</p>
<p>f: 発見・面白さ r: 興味・関心 i: やってみたい 楽しそう・面白そう・自分もやってみよう。 f: 思い付き i: 友達の存在</p> <p>f: 思い付き f: 喜び 先生も同じで思いで嬉しい。 i: 予想 傾けたら落ちるだろうな。 ①: 繰り返しによる確かめ やっぱり落ちた。 ①: 繰り返しによる考え きつと手で押さえたなら落とさないで立てるかも。 ①: 出来た喜び ②: 考える ①: 繰り返しによる確かめ 頭を動かさないようにするとカップは落ちないんだ。 f: 嬉しさ 面白さ r: 興味 i: 友達の存在 やってみたい。 f: 喜び 自分と同じだ。 i: 心地よさ i: 友達の存在 心地よさ 同じって楽しいな嬉しいな。</p>	<p>【4月】 一人遊びが多く、それぞれが好きな遊びを見つけ自分のペースで楽しんでいる。また、少しずつ身の回りのことを行う練習をしてきたところで“足”“頭”など体の部位と言葉が一致してきた。</p> <p>【5月上旬】 数名がリブブロックで遊び、それぞれが自由に形を組み合わせながら車を作って走らせていた。そのうち、A児が車を床の上で走らせるとガーガーと大きな音がした。何度も何度も車を往復させ遊ぶ。(f) その音に気が付いた他の子ども達も同じように床を走らせ音を出して遊び出す。(r・i)しばらくその場で遊びが続くと今度はB児がままごと用に出していたテーブルの上を走らせ始める。(f)床で鳴った音よりも静かな音がした。また、他の子ども達が同じように集まり、テーブルの上で車を走らせ始めた。(i)</p> <p>【5月下旬～6月上旬】 C児が重ねカップで遊んでいる。おもむろにカップを頭に乗せて(f)遊びだした。保育者が「<b>カップが頭に乗っているね!</b>」と気づいて笑うと、C児も笑う。(f)しばらく座ったまま、カップを頭に乗せては頭を傾けて落とすことを繰り返し(i・①)楽しむ。カップを手で押さえながら立ち(①)、そのうち手を離してそのまま歩いてみる。カップを落とさずに歩くことができ、笑顔になりその場で手を叩く。(④)</p> <p>一歩大きく踏み出すとバランスが崩れてカップが落ち、「あっ」「(落ち)ちゃった」と拾い上げ慎重に頭に乗せる。今度は頭を動かさないようそっと歩きながら、カップが落ちてはまた拾って乗せ歩くことをしばらく繰り返す。(②・①)</p> <p>保育者はC児の一連の遊びを撮影する。C児に撮影した動画を見せると、「<b>すごい!</b>」と嬉しそう(f)な表情を見せ、再び遊び出す。そのうちC児と保育者のやりとりを見ていたD児が真似をして(r・i)カップを頭に乗せて遊び出すとC児はD児を見て笑う。(f)そのうち、C児とD児が並んで遊び出す。(i)保育者は少し離れたところから「<b>2人とも同じだね。楽しいね。</b>」と言葉をかけるとC児とD児は顔を見合わせ笑った。(i)</p> <p>◆考察◆ 一人で遊んでいたところから、音をきっかけに“なに?”と他の子どもの姿に興味を示したり、保育者とのやりとりを見て“やってみたい”と関心・意欲に繋がったりした。(み・ん)1歳児が他者や物事に関心を寄せる時は、五感が刺激された時なのだと感じた。 後半の事例では、カップを頭にのせたのは“帽子を被る”というC児が最近身に付いた生活の動作から着想を得たのではないかと感じた。少しずつ経験が遊びに繋がるようになってきたようだ。ただ、経験はもとになっているが、最初から目的を持っていたのではなく、なんとなく始めた遊びから面白さを発見し、物事の性質に気が付き、自分なりに目的・目標が生まれチャレンジするというように変化し、またそこから他児へ遊び・気持ちが広がっていった。(み・ん・な)</p>	<p>安心して遊べる環境作り。 表情・心情の読み取り 子ども達でワクワクを見つけた。同じ遊びを通して友達の存在に気付いてほしい。 距離を確保する。 距離感が近すぎないよう安全で心地よい環境を作る。 状況を言葉にして伝える。共感する。 遊び方の変化 何を楽しんでいる? 最初は頭から落ちるのが楽しかったが、遊ぶうちに頭を傾けるとカップが落ちることに気が付いた。今度は落とさないことを目標にしているようだ。 動画を撮る。 イメージの広がり。 自分の姿を客観的に見て何を感じる? また違った面白さや満足感を味わってほしい。 状況を言葉にして表す。 思いを代弁する。</p>

<p>子どもの心の揺れ動き</p>	<p>活動の様子</p>	<p>保育者の視点</p>
<p>f: 面白さ ワクワク r: 知りたい i: やってみたい r: 疑問 i: 試したい 今のはなに? もう一回見たい。 f: 発見・喜び ④: 出来た喜び やっとできた! 自分でできて嬉しい! r: 不思議 ⑥: 考える ④: 手ごたえ f: 楽しさ i: イメージ ⑥: イメージの膨らみ ごみ収集車みたいに集めたよ。 i: やってみたい ⑥: イメージの膨らみ・考える i: 試したい 金魚をつかまえてみたい! i: 友達の存在 やってみたい r: 知りたい 楽しそうだな。 ⑥: 考える ④: 手ごたえ i: 試したい やってみよう! ⑥: 伝え合い ④: 出来た喜び できたことを知ってほしい。 ④: 繰り返しによる発見 ⑥: イメージの膨らみ i: 友達の存在 f: 面白さ ⑥: 伝え合い</p>	<p>水遊びの中に、感触遊びとして水風船を取り入れると、興味を持ったE児。握る・伸ばす・投げるなどして感触を楽しむ。(f・r・i)遊び続けているうちに留め具が緩み水が勢いよく飛び出した。E児は不思議そうな表情になり、再度その現象を起こそうと様々な方法を試し始めた。(r・i)強く握ったり口の部分を引っ張ったりすると水風船は破裂してしまった。しかし諦めずに何度も挑戦する。足で踏んでみると成功した。(f・④)何度も足で踏むことを試し、満足すると笑顔で拍手をし喜びを表す。足で踏み水を放出させる方法が分かり、繰り返すうちに、今度は放出される水の動きに興味を持ち始め目で追う。(r)次は手でもやってみたいと、握ったり指先を使って挑戦する。そのうち、力加減を知り手でも成功させることが出来るようになると握る力や方向を変え放物線を描くようにしたり、窓際にいたカエルや容器などの的を決めて水をかけたりして遊ぶ。(⑥・④)</p> <p>最近家庭で掃除の手伝いを喜んで行うという保護者の話を思い出して「綺麗にしてるの?」と尋ねると力強く頷き満足気な表情を見せる。</p> <p>プールの中にはE児が遊んだ後の割れた水風船が沢山浮かんでいる。それを見てF児は容器に集め始める。「何してるの?」と尋ねると「ゴミ収集車さんの!」と話す。(i・⑥)容器に割れた水風船をたくさん集めると1つのタイヤに出した。E児も真似て行う。(i)</p> <p>F児がタイヤに浮かぶ割れた水風船をじっと眺めている姿に、保育者が「金魚みただね」と知らせると、カップで割れた水風船を掬い始めた。(⑥・i)うまく掬えるとそれを保育者に見せ、出来た喜びを知らせていた。そんなF児の姿を見て、「やってみたい」とG児とH児も真似して遊び始める。(i・r)保育者が水遊びで使用している玩具(ポイ)で掬うことを提案してみる。ポイで掬うのは難しかったようでもうまく掬えず、持ち方や掬い方を変えながら何度も挑戦した。(⑥・④・i)上手できると「とれたよ!」と満面の笑みで喜びを周囲に伝えた。(⑥・④)</p> <p>しばらく金魚すくいごっこが続くと、次第に割れていない水風船も大きく育った金魚と見立て始め、カップの中に入れようとするが入りきらなかった。「入らないよ〜…」と不思議そうにするF児。(④)それを見てH児は「アイスみたい」と話し、いくつもアイスを作り始めた。(⑥)保育者がタイヤを裏返して机にするとそこへ並べ、F児・G児・H児は一緒に食べることを楽しんだ。(i・f・⑥)</p>	<p><b>働きかけ</b></p> <p><b>心情的読み取り</b> どんな発見を見つけたのか。その発見をどうするのか?</p> <p><b>発見したことに一緒に共感する。挑戦している姿を見守る。</b></p> <p><b>遊びの展開</b> 集めた水風船をどうするのか?</p> <p><b>見立ての例えを伝えることにより遊びを広げていく。</b></p> <p><b>友だちとの関わり</b> 友だちと遊ぶ楽しさを知り、遊びを広げて欲しい。</p> <p><b>気づきを子ども達に知らせ、遊べる環境を作る。友達とのやりとりを見守る。</b></p>
	 	<p>窓際のサッシに水をかけると、水が流れていく様子に面白さを感じしばらく水をかけることを繰り返す。(f)</p>
	<p>いっぱい集めたゴミ収集車だよ</p> 	
		
	<p>わあ、おいそうだね</p> 	

◆考察◆ 水風船1つに対して興味・面白さ・疑問などをそれぞれ違った視点で感じ、その思いが満足するまで遊び続けた。(み)なかなか思い通りの結果が得られない時でも保育者に助けを求めず、自分で考えることの面白さを味わいながら目標を達成すると喜びを感じていたようだった。また、他児の様子に興味を持ち真似てみると新たな楽しさや不思議さを味わうことができ、その思いを言葉にして周囲と共有することで遊びが膨らんでいった。(ん・な)主体的に遊びを進めていき、次々とイメージが形になっていったことで大きな満足感を感じる事が出来た。

## 【1歳児全体の考察】

特に月齢によって発達の差が大きい1歳児。低月齢であるほど生活・遊びの中での満足感が生活のリズムにも影響しているようだ。生活のリズムが整い、情緒が安定することで初めて周囲へ興味・関心が向く。子どもたちは興味の対象をまずはじっくりと「みる」ことから始まり、次に「触る」。その行動の繰り返しが経験となりまた新たなものへと興味を広げ、そこで主体性が生まれ、好奇心や思考の芽生えに繋がっていくのだろう。何事も繰り返すという動作で深まり、“同じ動きの繰り返し”から生まれた1歳児なりの“なんで？”“不思議”を確かめる・試すような“違う動きで繰り返し”に変わっていった。

保育者に求められるのは 子どもが自由に手を伸ばせる様々な素材の提供、子どもの思いや意図に気が付き、一人ひとりがそれぞれのペースで発見・探索を楽しめる心理的・物理的に安全な環境作りであると感じた。また1歳児は特に思いや気持ち、したいことを伝える手段が喃語や表情、些細な行動…と保育者がよく見ていないと拾い上げることが出来ないものである。それを理解し日頃から子どもと同じ目線でアンテナを張り、“気付く”ことが重要であると考えた。また、その思いや気持ち、場面・状況を言葉にして表したり、姿を形に残したりしたことによって、子どもも自分の思いに気が付き、“もっと”の思いが出てきたこと、他児への関心が広まったことを実感した。

## 【2歳児全体の考察】

今回の事例は個々に感じる面白さや不思議さなどを追及していく姿に対し、答えを教えず、考える姿に寄り添い続けたことで自分なりの答えを見つけた喜びや達成感を感じる事が出来た。自分だけでなく周囲への興味が高まる年齢であるため“面白そう”“やってみよう”と友達を真似てみることで新たな発見があり、それに合わせてどのように遊んでみたいのかを考え、必要な道具、場所を準備することで次々と遊びが発展していった。「喜び・不思議・ワクワク」などの気持ちを表情や仕草、言葉などそれぞれが異なった方法で表現していたが、その思いに保育者が気づき拾い対応することで、受け止めてもらう喜びや安心感を感じ、伸び伸びと主体的に楽しむことが出来た。

## 【昨年度からの課題への取り組み】

去年から課題として掲げている保護者との共有については、言葉が未発達な分、園での出来事や子どもの今の姿を、掲示物や保育・教育施設向け ICT システムを活用しドキュメンテーションで保護者に知らせ、保育者と保護者が子どものその時の成長を共有できるようにした。園での過ごし方・様子を知らせたことで、「大人の予測・都合で行動を制限せず、環境を変えたり整えたりし、楽しめるよう経験を見守ることが科学する心に繋げるために重要だ」と認識した声もあった。

## 【保護者に知らせる様子】

ファミリー参加デーを活用し、普段の園生活の様子や何を大事に保育しているか写真を使って伝えた。




## 【保護者の方からの感想の一部】

遊んでいる中で“楽しい”だけでなく“悔しい”や“怒り”、満足感や達成感という大切な感情を沢山感じているのだと改めて知ることが出来た。一人で遊ぶ時間やみんな(友だちや兄弟)と遊ぶ時間を大切にしていきたいと思った。

家では「危ないから」「もういいんじゃない？」と取り上げたり急がせたりしてしまうことがあるが、本人が気の済むまでやると満足感が得られることを知り、家でもできるだけ子どもの興味を尊重してあげたいと思った。


自分で「気になる！」「なんだ？」と関心を持ったことに、最後まで熱心に何度も繰り返す姿がとても嬉しかった。家では喜ぶ顔が見たいがためにどうしても手助けしたくなる時もあるが、そばで見守ることも大切にしたいと思った。

場面①「ドーナツ作り」

子どもの心の揺れ動き	活動の様子	保育者の視点 働きかけ
<p><b>f: 発見・気づき</b> <b>r: 興味・関心</b> ドーナツに見える！作りたい！ <b>r: 興味・関心</b> <b>i: やってみたい</b> <b>f: ワクワク</b> 自分で作ってみたい。 <b>f: 喜び・嬉しさ</b> <b>i: 友達の存在</b> 認められて嬉しい・伝えたい。</p>	<p>【4月下旬】 進級し、新入園児も新たに加わり、新しい環境に少しずつ慣れてきた。自分の好きな遊びをじっくり楽しみ、園生活に楽しさと安心感を抱き、いきいきと登園するようになる。ブロックやパズル、粘土遊びやままごとなど、同じ遊びを繰り返していることが多かった。友達との関わりというよりも、個々の遊び・自分の世界を楽しんでいる。</p>  <p>【5月】 I児が剣を作ろうと広告紙を使って、製作遊びを始める。くしゃくしゃっと丸めてボールの形にしたり、細長く折って腰に巻き付けてベルトに見立てたり、様々な表現を楽しむ。輪っかの形になった瞬間「あっ！ドーナツみたい！」とJ児が目を輝かせながら言った。(f・r) その一言で周りにいた子ども達も、ピタッと手を止めて、「どれどれ？」と覗き込んだ。(r・f) 「本当だ！まーるいドーナツだ！」周囲も共感する。「私もドーナツ作りたい！」「僕もやってみる！」と、興味を示し、使っていた遊具をすごい勢いで片付け、広告紙に手を伸ばした。(i・f・r) I児の回りは、友達で溢れた。I児の表情はパツと明るくなり(f)「こうやって、丸くするんだよ！」と、大きく手を伸ばして自分のドーナツを見せながら、得意気に作り方を教えた。(f・i)</p>	<p><b>保育者の視点</b> <b>働きかけ</b> <b>表情・心の読み取り</b>一人ひとりが楽しさを感じているか？ <b>安心して遊べる環境作り。</b> <b>寄り添う声掛け。</b> <b>心の読み取り</b> 何を作りたい？ 周囲の視線が変わった！興味が出たか？遊びが広がるきっかけになるかも！ <b>環境を広げ、素材を提供する。</b> <b>言葉を丁寧に拾い上げ共感する。</b></p>

◆考察◆ 自分の好きな遊びを黙々と楽しみ、そこに安心感を見出していた子ども達。I児の偶然出来上がった形、それに対して「ドーナツみたい！」と声をかけた一瞬で、**個々の世界から、一気に共通の世界へと子どもの視線が変わった瞬間だった。**(**み・ん**)「え？何？」「やってみたい！」と心が揺れ動き、**興味関心が遊び・友達に芽生えたことが分かる。**(**み・ん・な**)I児はきっとドーナツを作ったつもりはないのであろう。しかし、自分の作った物に皆が注目し、興味を示したことに大きな喜びを感じることが出来、「積極的に作り方を教えたい」・「一緒に遊びたい」という気持ちが行動に現れていた。(**み・ん・な**)

場面②「何色にしようかな？」

<p><b>f: 楽しさ</b> <b>自己満足</b> <b>f: 気づき</b> <b>r: 疑問</b></p> <p><b>f: 悔しさ</b> <b>i: やってみたい</b> <b>d: 更なる意欲</b> 本物に近づけたい。</p> <p><b>f: ワクワク</b> <b>r: 興味</b> <b>i: イメージの広がり</b> <b>友達の存在</b> <b>e: 伝え合い</b> 作品を見せ合う。</p>	<p>出来上がった広告紙ドーナツをトングではさんでお皿に盛り付け、「<b>私のは、チョコドーナツなの。</b>」とK児が見せる(f)と、「<b>チョコなの？チョコついてないじゃん</b>」と指摘するL児(f・r)。K児の中ではイメージが広がっていたが、L児はもっと本物に近い物をイメージしていたようだ。</p> <p>K児は、L児らの一言で、「<b>もっとチョコドーナツらしく見せたい</b>」という気持ちになり「<b>先生、絵の具で色を塗りたい。</b>」と、保育者に伝えた(f・i・d)。ちょうど、製作活動で絵の具を経験したばかりで、遊びに活かせると感じたようだ。</p> <p>K児：「<b>私はピンクの桃味♡</b>」 L児：「<b>僕は黄色にしよう！</b>」 M児：「<b>私もやってみたい！ピンク大好きだからピンクがいい！</b>」 N児：「<b>いちごチョコにしたいから、ピンクで塗る！！</b>」 自分で色を決めて、<b>広告紙ドーナツを染め始めた。</b>(f・r・i)</p> <p>保育者：「<b>L君は黄色が好きなんだね。</b>」 「<b>Nちゃんの桃味のドーナツ、美味しそうだね。</b>」 好きな色で染める子、味を考えて色を決める子と様々であったが、自分はこう決めたという考えを喜んで伝える姿があり、<b>楽しみ・ワクワクの期待が高まっていた。</b>「<b>Kちゃんの美味しそう</b>」「<b>L君の黄色いドーナツはバナナかな？</b>」と自然に子ども同士の会話が増えていった。(f・r・i・e)</p> 	<p><b>心の読み取り</b> <b>友達との繋がり</b> 個々がどう感じたか？ <b>自由な表現・個々のイメージ</b> <b>友達との関わり</b> 思い思いに楽しく活動を進めているか？ <b>思いを受け止める。楽しさを共有する。</b> <b>伸び伸び出来るように見守る。</b>  <b>他児へ伝達をする。</b></p>
--	--	---

◆考察◆ リアリティを求める友達からの声掛けにより、「**もっとこうしたい**」という意欲が沸いた。(**み**)この色はこの味などと決めつけず、一人ひとりが思い思いに取り組む姿を認め、**子どもの気持ちを言葉にして返すことで、認められた喜びを感じ、自分が認められて嬉しいからこそ、友達の作品に対しても良さや感じたことを言葉にして伝えるようになったと感じた。**(**み・ん・な**)ちょっとしたきっかけで人と人が繋がる瞬間が訪れ、遊びの広がり、心の豊かさに繋がっていくことが分かった。この後、**絵の具が乾くの待ちわび、他の友達や保育者も一緒に加わり、ドーナツ屋さんごっこが始まった。**(**み・ん・な・だ**)

場面③「あれ？粘土が固くなっていく～」

f: 期待  
r: 興味  
i: やってみたい

r: 不思議  
f: ワクワク  
i: やってみたい  
e: 試行  
f: 驚き・面白さ  
r: 不思議

f: 不安  
混ざりたいけど  
勇気がでない。  
r: 興味  
i: やってみたい  
f: 喜び・期待  
i: 友達の存在

f: 戸惑い  
イメージの違い。  
r: 不思議・疑問  
e: 試行  
伝え合い  
i: 予想  
e: 新たな気づき  
i: イメージの広がり

f: 期待・嬉しさ  
i: 試したい  
d: 更なる意欲  
f: 気づき  
r: 不思議・疑問  
e: 試行・伝える  
f: 面白さ  
i: 友達の存在

自分でドーナツを作って遊んだ経験が楽しく、「違うものも作ってみたい」という気持ちが高まり、アイスクリーム作りが始まった。(f・r・i) 油粘土でクッキーやお団子作りを好んでいたのも、別の素材である紙粘土を出してみると、指でそーとつついてみる。「え？白い粘土？」「バナラのアイス出来るね！」とワクワクしながら、紙粘土を手にする。(f・r・i)「うわっ、冷たい！」「あれ、手が真っ白になっちゃった！」と、油粘土との違いを感じ、友達に伝えていた。(f・r)

紙粘土を両手で丸めて、周りに絵の具で色を塗り始めた。白い部分をなくそうとアイスをクルクル回しながら、念入りに染めた。(i・e)「あっ、手も茶色になってる！」と手の平を喜んで保育者に見せ(f・r)、「Nちゃんの手もチョコ味だね。」と、保育者に共感してもらおうと更に楽しみ、夢中で遊び続けた。(f・i・e)

0児はブロックをしながら、目線はずっとアイス作りに向いていた。(f・r・i)「0君もやってみたいのかな？」と保育者のつぶやきを聞いたP児が「0君、この椅子空いてるよ！一緒に作ろう！」と声をかけた。(i) 0児の表情がパッと明るくなり、喜んでアイス作りに加わった。(f・r・i)

P児と0児は一緒に作り始めた。一生懸命粘土を混ぜる。「あれ、パラパラになっちゃったよ～」と、P児がパラパラになって落ちる粘土を拾い集めては丸めてを繰り返して、苦戦していた。(f・r・e)

0児：「さっきは、ぐちゃぐちゃしてたのに、ボクのアイスもなんだか丸くならなくなってきた～。」「これほんとに粘土なの？」とお互いの作品を覗き込む。(r・i)

先に始めていたN児：「この粘土、硬くなっちゃう粘土なんじゃない？」  
「だって私のチョコアイス、もうカチコチだよ。」(f・r・i)  
0児：「そっか、じゃあ早く作らないとね。」P児：「そうだね！」「スピードだ」  
0児とP児も更に意欲を高めて作業を進めた。(f・i・e)

「クリームもトッピングした～い。」というQ児の声で生クリーム作りにも挑戦することに。絞り袋に紙粘土を入れて、クリームを絞り出すQ児。(f・i・d)「Qちゃんケーキ屋さんみたいだね。」保育者が声をかけると、ケーキ屋さんでクリームを絞っている様子を見たことがあると話し、自分もなりきって進める。「なんか難しい。」「少ししか出ない。」(f・r・i) 自分がみたことのあるケーキさんのイメージとの違いに不思議さを感じている。今度は両手で握りしめ、思いきり絞ってみる。(i・e)「うわっ。蛇みたい」「これはウサギのウンチみたい」と色々な形になって出てくるクリームに楽しさ・面白さを感じ、友達に伝えながら繰り返し楽しんだ。(f・r・i)



ドーナツ作りの経験を活かし、遊びが広がることを期待して、紙粘土を出してみる。

**遊びの展開**  
遊びがどう変化していくのか？

**友達との繋がり**  
興味を広げ一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。思いや考えを受け止め、伸び伸び出来る環境を作る。気づきや発見を声にし、周囲に伝える。友達同士のやり取りを見守る。

**子どもの気づき**  
どんな発見があるか？自分なりに取り組む姿は？

丁寧に言葉を拾い上げ共感する。自由に進める姿を見守る。

**表情の変化**  
**友達とのやり取り**  
自分なりに試行錯誤する姿を認める。共感する。

◆考察◆ 一つの経験から子ども達の意欲は一気に高まり、様々な遊びに広がっていった。(み・ん・だ) これまでは絵の具での絵画や制作の際に、少しでも手が汚れることを気にしていた子ども達が、そのこと自体を面白がり楽しんでいた(み・だ)のは、主体的に活動し、心が弾んでいたからこそと言える。いつも使っている粘土とは違う、新たな素材に触れることで、触感や特性に気づき、五感を働かせながら遊びを深めていた。(み・ん・な) 実際に体験するからこそ紙粘土が変化していく様子を感じることが出来た。ケーキ屋さんになりきってワクワクした気持ちが表情に現れていたが、思っていたのとちょっと違う難しさを感じながらも、素材の不思議さや形の変化に面白さを感じ、満足感を味わっていた。(み・だ) 自分で作った物を取り入れてままと遊びをするようになると、誰かに食べてほしいと、気持ちの変化が見られ、友達との関わりが広がった。(み・ん・な・だ)

【3歳児全体の考察】

今回の事例は、日常の何気ない遊びの中でふとした出来事・ちょっとした気づきで、心が揺れ動き、新しい発見や“やってみよう”というワクワク感が高まり、主体的な活動へと繋がっていった姿を捉えた。この気持ちは生活する環境に安心感を見出せたからこそ芽生えた自己欲求だと考える。ただの一言で済まされてしまえば、きっとこの活動は広がってはいかなかっただろう。その瞬間を保育者は見逃さず、子どもの言葉や表情を大切に、共感することで更なる意欲へと気持ちが膨らみ、自然に人と人が繋がるきっかけになっていることが分かった。小さなつぶやき(驚き・嬉しさ・喜びなど)を保育者や身近にいる友達に伝える姿も増え、保育者や友達に聞いてもらえた・認めてもらえた嬉しさなどを感じ、“ドキドキ”“ワクワク”と心を弾ませていた。また、「どうして？」と疑問に思ったことを一緒に考え、実際に経験し、そこでの気づきや発見が新たな遊びに広がっていくと実感した。子どもの“やってみよう”“知りたい”という気持ちに寄り添いながら、心が揺れ動く瞬間を大切にしていくことが、多くの感情の芽生えに繋がっていくと感じる。



場面①「気持ち高まる素材との出会い」

子どもの心の揺れ動き	活動の様子	保育者の視点 働きかけ
<p><b>f: 期待・ワクワク</b> どんな物を作ろうかな？楽しみ！</p> <p><b>r: 興味関心 意欲・探求</b> やってみたいという意欲が沸き始める。</p> <p><b>i: イメージの広がり</b></p> <p><b>f: 喜び</b> 一緒に作るのが嬉しい。</p> <p><b>e: 伝え合い アイデア</b></p> <p><b>f: 期待・喜び</b></p> <p><b>i: やってみたい イメージ</b></p> <p><b>e: 伝え合い・発想</b></p> <p><b>f: 期待・喜び</b></p> <p><b>i: 願望 イメージ 友達の存在</b></p> <p><b>e: 伝え合い</b></p> <p><b>i: イメージの広がり</b></p> <p><b>d: 更なる意欲</b></p> <p><b>e: 新たな気づき</b></p> <p><b>e: 発見</b> こんなアイデアもあるのか。</p>	<p>昨年度の姿→空き箱を使つての工作に興味を示し、保育者と一緒に作品を作ることを楽しむ。</p> <p>進級後の姿→空き箱や画用紙、折り紙等たくさんの素材に気がつくと「箱使いたい！」「可愛いのもある♡」「こんなにたくさんあると迷っちゃうな」と感じたことを言葉にし、友達と伝え合いながら素材選びが始まった。</p> <p>R児は空き箱を手を持ち悩んでいる様子。</p> <p>保育者：「Rちゃん、その箱使つて何か作つてみる？」</p> <p>R児：「うん。作りたい！」(f・r・i)</p> <p>保育者：「何作つてみる？」思いを引き出し、一緒に考える。</p> <p>R児：「えっとね…動物がいいな。」「きりんを作つてみたい！」(f・i)</p> <p>昨年姉が空き箱で作つたきりんや猫等を思い出し“動物”に決定！！</p> <p>作りたい物が決まつたR児は「先生これは体ね。あと首と足の箱も持つてくる」(f・i・e)と活き活きとした表情になり保育者と一緒にきりん作りが始まつた。</p> <p>R児：「先生、これは足だからこの箱と箱繋げて」(i・e)</p> <p>保育者：「いいよ。じゃあRちゃんここ押さえてね」</p> <p>S児：「わたしも作りたい」(f・i)</p> <p>興味を示した子ども達がたくさん集まつてきた。→友達の作つている様子を見て「作つてみたい」「楽しそう」というワクワクの気持ちが大きくなつた。</p>  <p>「今日はパソコン作ろう」「いいね。」「僕、車を作つてみたいな～」「僕も同じやつ欲しい！」(f・i・e)と工作遊びに“楽しさ(ワクワク)”“作りたいという願い(ヒラメキ)”を大きく感じている様子。友達の作つている様子を見て興味を示す子どもが増え、やりたい気持ちや自分なりの考えを保育者や友達に伝え、意欲的に工作遊びに取り組む姿が多くなつてきた。</p> <p>T児：「きりんの足4本だから、四角い箱が欲しいな。」</p> <p>U児：「僕も細長い箱が欲しいんだ。」「一緒に探してみよう！」</p> <p>二人は、すぐに素材コーナーへと駆け寄り、一緒に自分の求める箱を探し始めた。(f・e・n)</p> <p>U児：「Tちゃん、この箱、足に使えるんじゃない？」</p> <p>T児：「それいい！ピッタリ！ U君、ありがとう！」</p> <p>U児がぴったりの箱を見つけてくれて、笑顔一杯のT児。(f・i・d)</p>  <p>パソコンを作りたいV児は、箱を組み合わせてみるが、少し物足りない表情を浮かべる。</p> <p>V児が「シールが欲しいな」と周囲を見渡し、つぶやく。保育者はV児の思いに寄り添い、シールを準備する。V児は更にイメージを広げ、黙々とシールを貼り付け、「キーボードみたいになつた！」「私、今、仕事中心なの！」と、パソコンを打つ真似をし、満足そうに遊びを楽しんでいた。(f・i・d) その楽しそうなV児の姿に興味を持ち、更に友達が集まる。(f・n・e)</p> 	<p><b>働きかけ</b></p> <p>自由に活動できるスペース・十分な素材の提供。</p> <p><b>個々の思いを読み取る</b></p> <p>何を求めているのか？</p> <p>子どもの思いを引き出す。</p> <p>そっと背中を押し、安心して活動に取り組めるように働きかける。</p> <p>一緒に活動を楽しむ。</p> <p><b>発想や気づき 感情の表現 友達との関わり・伝え合い</b></p> <p>十分なスペースを確保する。</p> <p>子ども同士のやり取りを見守る。</p> <p>必要な物を準備し、更にイメージを広げられるようにする。</p> <p>考えや思いに寄り添い、安心出来る存在となる。</p> <p>自由に表現する姿を尊重する。</p>

◆考察◆ 子ども達が自由に空き箱等を選んで遊びを楽しめるよう環境構成を工夫した。友達の姿から興味関心を広げ“楽しそう”“やってみたい”“これを作つてみたい”と心が動き、自ら行動に移す姿が現れてきた。(み・ん・だ・い) 友達と一緒に進めることで、自分だけでなく、友達のイメージも共有し、「この箱はどう？」と友達同士で助け合いながら材料を集める姿が見られるようになった。(ん・な・だ・す) “こうしたい”という思いと“どう進めればいいのかわからない”というもどかしさを感じていることに、保育者は注目し、子どもの願いに寄り添うことで、作る楽しさを感じ、満足感へと繋がっていることが分かる。保育者は子ども達が“やってみたい”“使いたい”と思つた道具を準備し、のびのびと表現できるよう環境・材料の確保を柔軟に行なうことが大切だと実感した。

**i: もっと試したい  
やってみたい**

作る楽しさを感じ、意欲が高まっている。

**r: 興味関心**

**i: イメージ  
e: 発想**

**r: 興味関心  
f: 期待・不安**

やってみたいけれど、出来るかな？

**i: やってみたい  
友達の存在**

**e: 協同**

**f: 喜び・嬉しさ  
d: 更なる意欲**

友達に受け入れられた嬉しさ。張り切る気持ち。

**d: 新たな挑戦  
e: 試行**

**i: 試したい  
f: 期待**

昨日の経験から、自分の力で頑張ろうとしている。

**f: 嬉しさ  
e: 伝え合い**

**d: 満足感**  
自分の頑張りを皆に伝えたい。



「今日はカレー作る」「昨日の続きやろう」と毎日工作を楽しみにし、継続性が出てきた。(i・r) 空き箱コーナーは1日で空っぽになってしまうほどである。作った作品を毎日大事そうに家庭に持ち帰る子どもの姿に、保護者の方も共感し、空き箱や空きカップ、毛糸やリボン等様々な素材を集めて、園に持って来てくれるようになった。「このリボンかわいい！バックに付けてみようかな。」「丸いカップだ！動物の目に使えそう！」と、色々な素材に触れることで、イメージが更に広がり、発想を友達に自由に伝えたり、“もっとこうしたい”という更なる意欲が高まっている。(i・e)

W児:「何作ってるの?」(r) X児:「かぶと虫だよ」  
W児:「僕も作りたいな」(f・r)

W児はX児が作っている姿をじっと見つめていた。“やってみたい”気持ちはあるものの、“自分で出来るかな”と少し不安な気持ちを抱きながらも、憧れの眼差しでX児の作っている姿を真剣に見ている。



W児:「僕も手伝ってあげる」(i)  
勇気を振り絞りX児に声をかけた。

X児:「ありがとう。ここ押さえてくれる?」(i・e)

W児:「分かった」(f・i・d)

W児はX児からの「ありがとう」の一言を聞いて安心した表情になる。そしてX児の話に耳を傾けながら、X児の力になろうと頑張っていた。

X児はかぶと虫が完成すると「出来た♪」と他の友達に見せに行ってしまう。W児はその様子を見ながら笑顔で見ていた。X児と一緒に作品を作ったことを経験し、一緒に作り上げる楽しさを感じたW児。その後も広告紙で紙飛行機やクルクル棒で武器を作っていた。(i・d・e)



翌日W児は、身支度を整えるとすぐに一目散に空き箱がある場所へ向かった。空き箱とハサミを準備し、作品作りを始める。自分なりにイメージを膨らませ、黙々と作業を進めた。(i・f)「先生見て」と満面の笑みのW児。「Wくん一人で一生懸命作ってたね。完成したの?」と保育者が伝えると、「うん♪ボール転がし作ったんだ。見てて」と、いきいきとした表情でやって見せる。「先生もやってみて!」と保育者にも貸してくれた。(f・d・e)



保育者:「難しいの良く作ったね。凄い!先生も楽しい」

W児:「先生上手。ママにも見せようっと」

自分で作った作品で遊ぶことの楽しさを感じ、最後まで自分一人で作り上げた満足感で溢れていた。

**期待の高まり  
気づきや発想**

**自己表現**

様々な素材に触れ、どんなヒラメキがあるか?

**主体的に取り組む姿を見守る。**

**気持ちの読み取り**

**表情の変化**

**友達との伝え合い**

やってみたい気持ち・友達と関わろうとする気持ちをどう表現するのか?

**気持ちを伝え合う二人のやり取りに耳を傾け、見守る。**

**感情の変化**

**主体的に取り組む姿**

自分なりに試行錯誤し、出来た満足感に共感し、頑張りを言葉で伝える。

◆考察◆

W児は、X児が作るカブト虫を自分でも作りたいという思いはあるが、心のどこかで自分に出来るのかという不安も抱いていた。勇気を出して「手伝ってあげる!」と声をかけ、X児からの「ありがとう」の一言で心が弾み、“一緒に出来る喜び”“自分の存在を受け入れてもらえた喜び”“頼りにされた喜び”と、色々な喜びを感じたことが伺える。(み・ん・な・だ)この喜びがW児にとって大きな自信となり、次の日に、自ら製作に取り組む姿に現れていた。(み・だ・き)自分一人で完成させた作品への思いは強く、“自分にも出来た”という経験の積み重ねが、自己肯定感を高め、更なる意欲に繋がっていくと考える。保育者は、個々の気持ちに寄り添い、悔しさも喜びも一緒に受け止め共感しながら、時には立ち止まってそっと背中を押したり手助けし、満足感や達成感につなげていくことが大切だと感じた。

**i: イメージの  
広がり・意欲**

**f: 気づき**

**r: 疑問**

年長さんは、どんな風に作ったのかな？

**f: 期待・ワクワク**

**r: 知りたい**

**i: 意欲の高まり**

**e: 探求**

年長児の発想や考えを学ぶ。

**n: 伝え合い**

自分の思いを言葉で伝える。

**f: 期待・面白さ**

**e: 知識の獲得**

**i: やってみたい**

**f: 喜び**

自分の思いに気が付き、声をかけてくれた嬉しさ。

**i: 心地よさ**

**e: 協同**

**d: 満足感**

お菓子の空き箱を準備し、自分の部屋作りをしようと制作を始めた Y 児。「ここが床だから、このお花柄の紙、カーペットにしてみようかな。」「壁も作らなきゃ。」(i)と、色々な素材を見比べながら、イメージを広げていた。Y 児：「あれ？これじゃあ、穴があいちゃうよ」「どうしたらいいのかな？」Y 児は扉を作りたいがどのようにしたらいいか悩んでいた。(f・r)

Y 児：「年長さん、お神輿を作ってたけど、自分達で考えて作ったのかな？」(f・r)

保育者：「年長さんに、何かいい方法はないか聞いてみる？」

Y 児：「うん！聞きたい！」(f・r・i)

年長クラス保育室に材料を持って行き、自分の思いを Y 児は伝えた。(f・e)すると年長 Z 児は「いいよ。手伝ってあげる」と、Y 児が持ってきた作品をじっくりみながら、Y 児がどうしたいのかを、真剣に聞いてくれた。「ガムテープと洗濯ばさみが必要だね。」等と年長児は自分達の経験を活かしながら Y 児の作品作りを親身になって手伝ってくれた。「洗濯ばさみで抑えるといいのか〜。なるほど。」Y 児は、年長 Z 児の発想に関心を深めた。(f・i・e)



年長児の作っている姿をじっと見る。(e・n)



自分の考えを年長児に伝える。(e・i)



教えてもらいながらやってみる。(f・e・i)

Y 児と年長児のやりとりを見ていた A 児。その様子に気付いた年長 Z 児が「一緒に何か作る？」と A 児に声をかけた。「うん。プレゼント作りたい」(f・i) A 児の表情がいきなり明るくなり、年長児と一緒に箱やりボンを選びプレゼント作りを始めた。プレゼントが完成すると「A ちゃんよかったね」「ありがとう」と会話を交わし、A 児はとても大切そうに作品を抱きしめていた。(i・e・d)



**表情の変化  
気持ちの表れ  
模索する姿**

子どもの思いや考えを読み取る。

アイデアを伝える。

年長児との交流の場を設ける。

自分の思いや考えを伝える姿を見守る。

**感情表現  
心の揺れ動き**

**表情の変化**

**言葉のやり取り**

年長児との関わりを見守る。

喜びや満足感を共有する。

◆考察◆ 良い方法が分からず戸惑っている Y 児の姿に保育者が気づき、年長児との関わりのきっかけを作った。友達や保育者との関わりだけでなく、異年齢交流の機会を意識して取り入れてきたことで、日ごろから、年長児への憧れが高まっていた。年長 Z 児が洗濯ばさみを使っている姿に、Y 児は新たな気づきや発見をし、経験知が豊かになっている。(ん・だ) こうした沢山の刺激が、“もっとこうしてみたい”という向上心や“今度は自分なりに挑戦してみよう”という意欲に繋がっていると考える。(み・ん・な・だ・き) 年長児にとっても頼られる喜びや優しく接しようとする年長児としての意識が現れていた。遊びの時間の確保や子ども達の関わりを大切に、子どもの考えや期待に向き合い、模索していくことで、一歩ずつ実現に近づけることが保育者の役割であると実感した。

#### 【4 歳児全体の考察】

友達との関わりが深まっていく中で、互いに心を通わせ、気持ちを言葉で伝える事の大切さが分かり、自ら行動しようとする姿に繋がっていた。興味関心が高まり、張り切る姿と共に自分の力に自信が持てなかったり、もどかしさを感じたり葛藤する姿が多く見られる時期である。だからこそ、子ども達の気持ちを読み取り、受け止めて、一緒に作ったり、サポートしたり、時には見守り、一人ひとりに合わせた関わりを大切にすることが、喜びや達成感へと繋がる道しるべになることが分かった。『保育者や友達と一緒に』『自分で』とそれぞれの気持ちを汲み取り、何を求めているのか見極めが重要だと考える。保育者も同じ目線になって活動することで、外側から見える様子や気持ちだけでなく、内面の様子や気持ちが見えてくる。更に、異年齢と関わりを持ち、沢山の刺激を受けることが、新たな学びとなり、心のときめきが豊かになると感じた。保育者間の連携が必要になるので、学年の枠を超えて、子どもの姿を伝え合い、対話を深めていくことを意識することが大切だと感じる。

子どもの意欲やモチベーションは、周囲からの共感や認められた喜びが大きく影響していると改めて感じた。事例を通して大好きな友達、保育者、そして家族に、自分の頑張りや思い、喜びと一緒に共有してもらおうことが、子どもの心の豊かさを築いていくと読み取ることが出来た。園での様子を伝えたり、家庭での姿を知らせてもらい、子どもの心の変化を共有できるように働きかけていきたい。

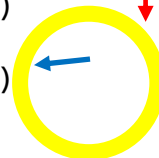
場面①「ワクワク探検！どんな素材がいいかな？」

<p>子どもの 心の揺れ動き</p>	<p>活動の様子</p>	<p>保育者の視点 働きかけ</p>
<p><b>f: 想像・気づき</b> どんな物がお神輿に合ってるのかな？</p> <p><b>r: 疑問</b></p> <p><b>i: イメージ 予想</b></p> <p><b>e: 伝え合い</b> 良いも悪いも自分なりの考えを伝えたい！</p> <p><b>f: 期待・気づき</b></p> <p><b>i: 考える・願望</b> <b>イメージ</b> <b>友達の存在</b> こんなお神輿にしてみたいな！考えを共有することで、心地よさを感じる。</p> <p><b>e: アイデア 発想</b> 自分なりの表現を楽しむ。</p> <p><b>f: 戸惑い・想像</b> どうしたらいいのかな？</p> <p><b>i: 考える・予想</b> <b>イメージ</b></p> <p><b>n: 見比べ</b> この大きさは合うかな？</p> <p><b>f: 不安</b> どうしよう。</p> <p><b>f: 期待・気づき</b> これなら出来る！</p> <p><b>i: 試したい</b> <b>イメージ</b></p> <p><b>e: 協同</b> <b>伝え合い</b> 互いを思い合う気持ちの表れ。安全への意識。</p> <p><b>d: 更なる意欲</b> 一緒に頑張ろう！</p>	<p>昨年度の夏祭りでの年長児の姿を見ていて、お神輿やよさこいに憧れや期待を抱いていた。絵本や動画を活用し、「お神輿」ってどんな物なのか自分達で調べた。「引っ張るお神輿」だけでなく「担ぐお神輿」があることを知り、自分達で作って担いでみたいという気持ちが大きくなり、お神輿作りが決まった。</p> <p>◆材料選び◆</p> <p>○木 B児：「木の板とか？」 C児：「どこかにあるかな？買わないとなさそう」</p> <p>○石（コンクリート） D児：「強くて丈夫な物が出来そう！」 E児：「重いよ！絶対持てない。」</p> <p>○段ボール F児：「良いね！ハサミとかで切れるし、好きな形に出来そう！」 G児：「壊れやすいよ。雨降ったらすぐ壊れちゃう。」 保育者：「雨の時はホールで夏祭りやるんだって。」 H児：「何かシートをかければいいんじゃない？」 E児：「じゃあ、お神輿は段ボールで作る事にしよう！」</p> <p>素材の良さ・悪さなどを出し合い、段ボールや牛乳パックなど身近な素材を使って土台を作ることに決定した。<u>そしてどんなお神輿にしたいかを自分なりに考えて、絵に描いて表現し、発表した。互いのアイデアを取り入れながら考えをまとめ、『おみこしせっけいず』を作った。</u></p> <p>(f・i・e)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ふじ組のお神輿 → 丸型・二段・動物・虹 ロボット</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>かたれや組のお神輿 → 「夏の思い出」 三角の形 花火・カブト虫・花 光る風船</p> </div> </div>  <p>【お神輿作り】・・・ふじ組の様子</p> <p>お神輿のイメージが決まったので、早速作り始めることになった。「丸いお神輿を作るには、大きな丸を作らないといけないけど、どうしよう」(f)とI児が言う。「大きい丸を探してくれればいいんだよ！」(f)とJ児が言い、丸い物を探しにいろいろな保育室やホール、園庭に出掛けた。(f・i・n)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 25%;"> <p>それも丸 だけど、 小さくない？</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 25%;"> <p>あっちに、 これがあ った！これも 丸いよ！</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>子ども達が見つけた円</b> 大型遊具の登るところ フラフープ（大・中・小） 洗面器・バケツ</p> </div> <p>バケツや大型遊具の登るところなど、いろいろな丸を見つけたがなかなか良い大きさの丸が見つけれなかった。(f)「これはどう??」「丁度いいかも。」 「下の段を大きい丸で、上の段を小さい丸に出来るね。」ホールで見つけた2種類の大きさのフラフープでイメージが広がり、実際に段ボールに丸を書いて切り始めた。(f・i・e) 最初は、全員がハサミを準備し出し、みんなで切ろうとしていた。次第に「僕こっち切るから、そっち押さえてて!」「疲れたら交換しよう!」等と順番にやる姿が見られた。(f・i・d)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>疲れたら、代わるね!</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こっちは任せて!</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>一緒に合わせてみよう</p> </div> </div>	<p><b>感情表現</b> <b>他児への関心</b> <b>イメージの広がり</b></p> <p>思いを引き出す。伝える場を作る。個々がどのようにイメージを持っているか、つぶやきや発言を大切にし、表現出来る環境を整える。</p> <p><b>アイデアを可視化する。</b> 図にまとめ、目的の明確さ・イメージの共有・アイデアの広がり・意欲の高まりを期待。</p> <p><b>個々の関心度</b> <b>表情の変化</b> <b>感情表現</b> <b>他児への関心</b> 個々の言葉に耳を傾け、共有する。子ども同士の伝え合いを見守る。思いや考えを尊重し、実際に探したり、試行する時間を大切に。全体へ投げかける。疑問や思いを全体に投げかけ、様々な考えがあることに気づき、皆で深めることができるようにする。</p>

**r: 疑問**  
**i: 予想・考える**  
 自分なりに考えてみる。  
**f: 気づき・想像**  
 この方法はどうか？  
**e: 試行**  
**n: 伝え合い**  
**経験からの考え**

**e: 新たな気づき**  
**n: 協働**  
 こっちも一緒にやってみよう！  
**i: 試したい**  
**友達の存在**  
**d: 更なる意欲**

同じフープを使って大きさを切ったはずなのに、合わせてみようとするとうまく形にならなかった。(円柱の側面部分が斜めになっていて、蓋と合わない)  
 K児:「**なんでここが飛び出るんだろう。重ならないよ?**」(r)  
 L児:「**丸が大きいから?**」(i)  
 K児:「**でも、同じフープで描いて作った丸だよ?**」(r)  
 周囲の子:「**え。なんでかな?**」(r・i)  
 M児:「**ここ(内側)とここ(外側)は大きさ違うよ?**」(f)  
 N児:「**じゃあ、丸を重ねて大きさを調べてみたらいいんじゃない。**」(f・i)  
 N児のアイデアに期待を持ち、すぐに型を合わせてみる。(i・e・n)  
 N児:「**あれ?同じだよ?じゃあなんでだろう?**」(f・r)



～お神輿の状態を見て各々が考える～

M児:「**あ!わかった!ここ(壁)の部分の斜めになってるんじゃない?だからうまく重ならないんだよ!**」(f・i・e)  
 N児:「**そっか!じゃあ、どうしよう。**」  
 K児:「**じゃあ、ここ(壁)を真っ直ぐにしながらくっつけばいいんだ!**」  
 周囲の子:「**そうだね。もう1個の方も同じようにやってみよう!**」(i・e・d)



**思いの伝え合い**  
**友達との関係**

自分達で模索する姿を認め、見守る。  
 子ども同士のやり取りを見守り、必要に応じて手助けをする。

**協働的な姿を尊重する。**  
 友達を意識し、共に協力しようという気持ちを大切にす。

◆考察◆ 昨年度の年長児の姿を見て、憧れを抱いていた子ども達は、今度は自分達の番であることにとても張り切っていた。“自分達でお神輿を作ってみよう”という新たな挑戦にクラス皆の心が弾み、自分なりのイメージを膨らませていた。(み・だ・い・き) 絵に描いて自分なりの考えを発表する場を設けたことで、友達の良さや新たな考えに気付くきっかけになり、(ん・だ)「それいいね」と周囲から声をかけられることで、認められた喜びを感じ、意欲へと繋がっていた。(な・だ・い・す・き) それぞれの思いを『おみこしせっけいず』として図に表したことで、よりイメージが共有化され、材料探しや大きさの決めてとなるのに大事な役割を果たしていたと考える。自分なりの考えや思い、疑問を声にし、周囲が否定ではなく、更に自分なりの考えを伝え合う姿に、互いを認め合う安心出来る関係性が感じられた。(ん・だ・い・す・き)

場面②「みんなのアイデア大集結!!」

**f: 戸惑い**  
**i: 考える**  
 どうしたら良いかな?  
**f: 気づき**  
**i: 予想**  
**試したい**  
**e: 試行**  
**n: 経験からの**  
**考え**  
**r: 疑問**  
**n: 経験からの**  
**考え**  
**d: 更なる意欲**  
 新たな気づきで更に意欲が高まる。  
**i: 試したい**  
**e: 試行・協同**  
 目的を果たすために手分けして作業する姿が現れる。  
**i: 考える**  
**n: 再び確認**  
**f: 期待**  
**i: 意欲**  
**e: 試行**

【屋根はどうやって作ろう?】・・・かとれや組の様子  
 各家庭から持ち寄った牛乳パックを使って骨組みを作り、屋根作りに取り掛かる。丈夫で平らな段ボールで作ろうと考えたが、段ボールを前にどう進めていいか、みんな首をかしげる。(f・i)「**マグフォーマーで遊んだ時に屋根みたいな形が作れたよ!**」「よし、やってみよう!」(f・i・e・n) マグフォーマーを準備し、それぞれ屋根の形をイメージしながら組み立て始める。



こんな形の屋根はどう?

三角の形を合わせて屋根を作るために、大きな段ボールにペンで線を書いた。「**これだと線が曲がってるからだめだよ**」(f)  
 「**じゃあ、どうすれば良いの?**」(r)  
 「**私のお兄ちゃんは線を書く時に定規を使ってるよ**」(n)  
 「**じゃあ、長くて真っすぐな物を探そう!**」(i・d)  
 それぞれが保育室中を探し回り、鉛筆やストロー、積み木など、様々な物で試してみた。(i・e) しかし、どれも長さが足りず、次の物をどんどん探した。大きい段ボールの切れ端を見つけ、これなら真っすぐで硬さも長さもぴったりだということに気付いた。自然と段ボールの位置を合わせる人、押さえる人、線を書く人で役割分担ができ、みんなが納得のいく真っすぐな線を書くことに成功!  
 大きな三角が4枚出来た。(f・i・e・d)



「**どうやって組み立てる?**」またマグフォーマーを手にする。周りに皆も集まり、マグフォーマーで作った形を開いて、どこをくっつけば良いか考えた。そして同じような形になるように、段ボールの三角も床の上に平らに並べてみた。(i・n)



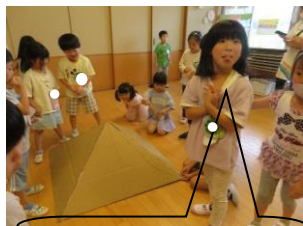
**考えを深める姿**  
**友達との伝え合い**  
**i: 対話**  
 どのように解決策を見出していくか?  
**個々の意見をどう折り合いをつけていくか見守る。**  
**試したいと感じたことをすぐに実行出来るように、柔軟に素材や環境を確保する。**  
**意欲の表れ**  
**協働的な姿**  
**他児への関心**  
**高藤する姿**  
 みんなの思いが繋がってきた? 目的を果たすために一人ひとりの姿がどのように変わってきたか?

f: 期待  
e: 協同  
f: 驚き・喜び  
i: 友達の存在  
d: 満足感  
更なる意欲  
思い描いていたイメージが形になり、大きな喜びに！

f: 期待・面白さ  
i: やってみたい  
大好きなカブトムシだ！ボクも作ってみたい。  
e: 伝え合い  
知っていることを伝えたい。共有したい。

n: 経験からの考え  
i: 友達の存在  
やってみたい  
友達と一緒に楽しさを実感。  
e: 新たな気づき  
d: 更なる意欲  
f: 喜び・嬉しさ  
d: 満足感

「じゃあ、合わせてみよう！」ガムテープを準備し、手分けして貼り進めた。  
(f・i・e) 表だけでなく裏も貼り付けた方が丈夫に作れるという意見から、裏返すことになった。みんなでそーっと持ち上げた瞬間…。偶然にも、裏返す過程で「ピラミッドになったー!!!」と作ろうとしていた屋根の形が出現。「これ！これだよ！」「僕が押さえてるから、今のうちに早く貼って！」みんなで急



あっ！出来た！！

いで貼り合わせ、屋根の形が出来上がった。(f・i・d)すぐに骨組みの上に乗せてみると、イメージしていた形が実現した。「わっしょい、わっしょい！」気分はもう夏祭り！(f・d)



【飾り付け】

お神輿の形が出来、更に意欲を高め、それぞれ分担しながら装飾作りに力が入った。生き物が大好きな子ども中心にカブトムシとクワガタ虫を作ろうと、どんな素材が適しているか話し合い、柔らかくて形を作りやすい新聞紙を使うことにした。また、かっこよく目立たせるために、アルミホイルや折り紙を使って色を付けることにした。

虫が大好きでいろんな事を知っている0児も、いきいきしながらカブトムシの形を模索し始めた。「足はね、こんな形なんだよ！」「もっとここは細いんだよ！」一緒に作業をする友達に伝え、意欲的な姿を見せた。(f・i・e)  
※0児は骨組み・屋根作りの段階では、みんなの様子をじっと見守っていた。

「ここをギュって握ると硬くなって、好きな形が出来るんだよ」(n・i)という0児の言葉に「そうなんだね。0君ありがとう。やってみる！」(i・e・d)と周囲も反応し、チャレンジしてみる。友達の声聞いて、アルミホイルの特性に気づき、角や足の形を思い思いに作れるようになった。(f・d)



※0児の姿の変化

個々の気持ちの読み取り  
試行する姿  
気持ちの変化  
上手くいった感動や喜びを一緒に共有し、頑張りを認める。

心の移り変わり  
自ら行動する姿  
友達との関わり

0児の気づきや知識を周囲へ伝え、友達との関係性を深める。

自ら行動する意欲を認め、楽しさを共有する。

◆考察◆ 普段から慣れ親しんで遊んでいる遊具を使って、屋根を組み立てる方法を模索する姿に探求心や目的に向かう意欲の高まりを感じた。(み・ん・な・だ・す・き) 友達の声に耳を傾け共有することで、自分に出来ることを探し、自発的に行動する姿が現れ、協働性が育まれていた。(み・ん・な・だ・い・す・き) 保育者は、子ども達それぞれの考えを尊重し、否定したりせず伸び伸び取り組む姿勢を温かく見守ることを意識した。自らが試行錯誤し、苦労したからこそ、偶然出来上がった屋根の形への驚きと喜び、感動は皆で共有出来た大きな満足感・達成感となった。お神輿作りになかなか関わろうという姿が出てこなかった0児の様子を保育者はずっと見守り、0児が輝ける機会を伺っていた。「これやってみたい」と心を弾ませた瞬間を尊重し、自ら張り切って行動する姿を保育者はしっかり認め、周囲とも共有することで、仲間としての絆にも繋がり、0児のお神輿への思いも変わったと考える。(み・ん・な・だ・い・す・き)

場面③「見せて！教えて！それなあに？～地域の方の力を借りて～」

f: 期待  
r: 知りたい  
i: 予想  
本当に光らせることが出来るか？  
f: 面白さ  
r: 不思議・疑問  
i: 考える  
e: 試行  
f: 気づき・喜び  
実際にやって気づいた喜び。



【お神輿を光らせたい！！】

地域事業の一環で、地元の会津大学院生と交流を図り、IT関連を活かしたものづくりを一緒に行うことになった。そこで、お神輿に乗せる“光る風船”の作り方や虹を光らせる為の良い方法を聞いたり、実際に一緒に電球をお神輿に付ける機会を設けた。(f・r・i)

LED電球に初めて触れて、大学院生と同じように実際に電気をつけてみた。「あ、光った！」「僕のは付かないんだけど～。」「僕に貸してみよう！ほら、ついたよ！」「さっきつけたのに、今度は光らない」(f・r・i) LEDが光る時と光らない時がある事に気付く。電池を裏返したり、銅線を付ける位置を変えて子ども達なりに考え、電池の向きが大切だと言う事に気付いた。「電池のザラザラした方にこれをくっつけて、ツルツルの方にこれをくっつけるんだよ」(f・e) 気が付いた事を近くの友達に教え、ちゃんと光ることがわかると満足した表情を浮かべた。



興味関心の広がり  
友達との伝え合い  
子どもが分かり易い言葉で代弁し、理解できるようにする。

気づき・新たな発見に共感し、周囲へ伝える。

r: 興味関心

f: ワクワク

どんな風にするのかな?

e: 新たな発見

f: 期待

n: 見通し  
予想

落ちたらどうしよう。心配だな。

f: 安心・期待

d: 更なる意欲

f: 嬉しさ・期待

お家の人に見てもらえる喜び。

f: ワクワク

i: 心地よさ

d: 満足感

達成感

やり遂げた喜びがあふれている。そして祭り当日への高まる期待感。

【土台作りをしよう】

DIYが得意な保護者の方がいらっしゃり、子ども達の手作りお神輿に賛同し、お神輿の持つ部分を作って下さった。初めてみる道具やネジの名前を知るなど、多くの発見があった。(r・f)

また、「**大工さんってかっこいいね!**」などと、職業について知る良い機会になった。



実際に形が出来るまでの過程を見ることができ、子ども達の期待はどんどん高まっていった。(e・f)「**乗せるだけだと、担いでいる時に落ちちゃうかもしれないよ!**」(n)という子どもの心配に、保護者の方も耳を傾け、一緒になって方法を考えた。「**強力な磁石を取り付けてみようか。**」と、アイデアを出して下さり、「**よろしくお願いします!**」と子ども達も安心した様子を見せ、感謝の気持ちでいっぱいになった。(f・d)



◆お神輿の完成◆

自分達で考えを出し合い、協力しながら作り進めたお神輿の完成に喜びや当日への期待はとても大きかった。「**ステキなお神輿出来たから、ママ楽しみにしててね。**」とワクワクしながら伝えていた。

(f・i・d)



～保護者からの感想の一部～

今年はお神輿をクラスごとにテーマを決めて取り組んだということで、クラスの個性が出ていてとても素敵でした。うちの子は前日まで体調が悪かったのですが、自分達で作ったお神輿を担ぎたいから、絶対に行きたいと！話していました。手作りということで、思い入れも強かったのだと思います。

◆考察◆

自分達の手だけではどうしても出来ず悩んでいた問題について、様々なアイデアを直接聞くことが出来、思いが実現できる喜びや期待が表情に現れ、より意欲を高めていた。(み・ん・な・だ・い) 地域の方と様々な方法で繋がることは、子ども達にとって新しい出会いとなり、知識や考えを深め、新たな気づきを得ることが出来る。(ん・だ・き) 経験の広がりを持つことは、子どもの心の揺れ動き、広がり、深まりに繋がるということが分かった。

子ども達の様子を日頃から家庭と共有することで、保護者の方も、頑張る我が子の為と同じ思いや同じ目的を持って協力し、結果だけでなくそれまでの過程で育つ心の成長にも気づくことが出来たのだと感じた。

【5歳児全体の考察】

“お神輿を作りたい”という自分達の思い(主体的な姿)から始まった活動を通して、友達と一緒に目的・目標を明確にし、互いに思いを伝え合い、協力して進める姿に繋がっていった。イメージを共有することで、自分なりに考えを抱くことが出来、互いに意見を出し合い、認めたり認められたりする姿が見られた。心を通わせ、安心して自己表現出来る環境の中で、より活動意欲が高まっていったと考える。クラスの中で話し合う機会を何度も設け、思いの伝え合いや試行錯誤する時間を大切にしてきたからこそ、一つずつ課題を乗り越えていくうちに、喜びや感動を積み重ね、更に次の課題へと心を弾ませ期待を持って意欲的に行動している姿に現れていたと感じる。また、一緒に考えを深め、喜びや悔しさを共に経験することで、友達の存在に心地良さを感じ、友達の良いところに気付き、認め合える関係が構築されたことを実感した。保育者や大人の考えや思いと違うところがあっても、先回りせずに、子ども達のやりとりを見守ることで、子ども達が自ら考え、気づく機会を保障することが出来ると感じた。

子どもの思いや考えは、日々の遊びや生活で経験したことや知識が基になっていて、一つひとつ細かな経験が、全ての活動に繋がりを持っている。普段の生活の中で煌めく表情、ふとした言葉、自ら動き出す体、子ども一人ひとりの表現を見逃さず、丁寧に受け止める意識を保育者間で共有し高めていきたい。子どもの“知りたい”“やってみたい”“挑戦したい”の気持ちを尊重し、どこまでも保育者が向き合い、一緒に心を弾ませることが、何よりも子どもの心の育ちに繋がりを、保育者の大切な役割であると考えている。これからも、子ども達が自分で考える機会を保障し、主体的に行動する姿を見守りながら、保育を進めていきたい。

興味の広がり

表情の変化

気づきや発見

友達との関わり

土台作りを実際に見て、どんなイメージを広げていくか? 祭りへの期待が膨らんでいるか?

子どもの気づきや発見を丁寧に拾いあげ、周囲に伝えたり、解決の糸口を一緒に探る。

感謝の気持ちや沢山の方に支えられている喜びが感じられるような声かけをする。

## 6. まとめ

### ☆学年ごとの科学する心の育ち☆

☆下の表は、各学年の実践報告で、1ページ目で示した本園の考える「科学する心の育ち」図表のどこの部分の心の動きやどんな力が育まれたかを数え、数字で表わした。

心の動きの変化・行動、姿の姿容	1歳 2歳	3歳	4歳	5歳
f 感情の芽生え・広がり	10	21	24	27
r 興味・関心	6	16	6	8
i 意欲・探求	14	15	22	22
e 調べる・探求		5	15	13
㊦ 考える・伝え合い	8			
n 試し探究心を深める			3	7
㊦ 繰り返しによる考え・発見	5			
d 主体的活動による心の育ち		2	6	10
㊦ 出来た喜び・満足感	3			

子どもの心の動きに伴う主体的な活動によって育まれる力・経験の広がり	1歳 2歳	3歳	4歳	5歳
み 感情表現	3	11	4	4
ん 他児(物)への関心	3	8	5	5
な 共感・葛藤・大切な存在	2	6	5	5
だ 交友関係・興味関心の広がり		5	6	7
い クラスの一員としての意識の高まり		1	1	5
す 仲間としての意識			1	5
せ 自己肯定感を育み認め合う仲間関係・個々としての育ち			2	6

(←幼児の心の動きとまではいかないが、薄っすらと感じる乳児なりの変化を㊦㊦㊦とした。)

乳児の心の揺れ動きについては、子どもの直接的な言葉が少ない分、子どもの些細な表情の変化や行動からの保育者の読みとりによる部分が多い。幼児と比べると様々な感情や興味の芽生えも個々で完結することがほとんどであった。保育者のかかわりから様々な心の動きに広がりが見え、“もっともっ”と膨らんでいった。乳児期に芽生えた、探求心や達成感や満足感、期待が幼児期における感情の土台、興味や意欲に繋がっていくと考える。

1・2歳児での豊かな感情表現・様々な経験や出会いは、その後の3歳以上児での、意欲や自己表現、考えを深める力、仲間との協働性へと、全てに繋がっていく。だからこそ、園全体としての繋がり、そして見通しを持った保育が必要になる。保育者同士が常に子どもの様子や変化について情報を伝え合い共有し、子どもの育ちを深める対話を大切にしていくことがとても重要だと感じた。

### ☆保育者の視点・関わり☆

学年	保育者の視点	主な保育者の関わり
5歳	感情表現 ・意欲の表れ ・気持ちの変化 気づきや発見 ・イメージの広がり 考えを深める姿 ・葛藤する姿 ・試行する姿 友達との対話・思いの伝え合い・協働的な姿	・個々の言葉に耳を傾け、共有する・伝え合う場を設ける ・自分達で模索する姿を認める ・喜びや感動を共有する ・柔軟に素材や環境を確保する ・一緒に考えを深める ・協働的な姿を尊重する ・折り合いをつける姿を見守る ・家庭や地域の協力を仰ぐ(専門的な知識に触れる機会作り)
4歳	感情の変化・心の読み取り 自己表現 ・発想や気づき・挑戦しようとする姿 主体的に取り組む姿 ・模索する姿 友達との関わり・伝え合い ・言葉のやり取り	・思いや考えを引き出す ・興味、関心を持続させる工夫 ・必要に応じてアドバイスしたり、手助けをする ・自由な表現を尊重する ・頑張る姿を言葉で伝える ・必要な用具やスペースを確保する・交流の場を設ける ・子ども同士のやり取り、伝え合いを見守る
3歳	表情の変化 ・心の読み取り 自由な表現 ・個々のイメージ ・遊びの展開 友達への関心・関わり	・思いを受け止め、共感する ・一緒に楽しさを共有する ・伸び伸び活動出来る環境を作る ・安全に配慮する ・言葉を拾い上げる ・楽しさを周囲へ伝え広げたり、個々の思いを代弁する
2歳	表情の読み取り ・心の読み取り 個々のイメージ ・遊びの膨らみ 友達への関心・関わり	・思いを受け止め、共感する・必要に応じて言葉を補足する ・伸び伸び活動出来るスペースの確保、きっかけ作りをする ・他児への伝達 ・やり取りを見守る
1歳	表情の読み取り ・心の読み取り 遊び方の変化 他児への興味・関心	・思いに共感する ・思いを代弁する ・状況を表情豊かに言葉で知らせる ・安心して遊べる環境を確保する(心地良く遊べる距離) ・他児の存在を知らせる

それぞれの年齢での育ちを保育者が理解し、これまでの育ちと繋げて保育を組み立てていかなければ「科学する心」の育ちは途切れてしまう。保育者一人ひとりがどのような視点で、どんな関わりを意識して子どもと接しているかを可視化した。子どもの心の動きを読み取るには、保育者自身が科学する心を育み、一緒に心をときめかせて楽しめる柔軟な心を持ち続けることが、子どもの科学する心をより深めていくと実感した。



## ☆科学する心の育ちと道筋☆

科学する心の育ちを年齢での繋がりと捉え、イメージが持ちやすいように花の成長に見立てて表記した。保育者の視点・働きかけと合わせて、一つの表にまとめ可視化することで、子どもも保育者も縦の繋がりが大切であると実感した。今後本園ではこの表も活用し、園全体として保育者同士が理解を深め、子どもの様子や気づき、成長について対話を重ね、子ども一人ひとりが自分の良さを最大限発揮出来る保育を更に求めていきたい。

### 科学する心の育ちと道筋

年齢毎に主体的な活動を積み重ね、様々な発見や疑問・楽しさを感じながら心を弾ませてきたことで、自己肯定感が高まり、自分なりの花(満足感・達成感)を咲かせることに繋がる。この育ちが土台となり、将来の社会での力となる。

科学する心の育ち		保育者の主な視点・関わり
<p>目標を持って活動し、目的を達成させるために特性を調べたり、環境を工夫したりするようになる。自ら行動し、試行錯誤を繰り返すことで、喜び・悔しさを積み重ね、達成感や満足感を味わい自信となる。自分だけでなく周囲と共有し、協働性が育まれる。</p>	<p><b>5歳児</b> 開花</p>	<p>個々の思いや考えを伸び伸びと発揮できる環境・十分な時間を保障し、対話を大切にしていく。地域や家庭の協力を得ながら、知識の向上に繋げ、探求心を更に育む。子ども達が友達の良さに気づいたり、目標に向かって協働していく姿を認め、保育者は個々の力を信じる。</p>
<p>友達や年長児から刺激を受け、意欲・関心が更に高まる。この刺激が養分となり、自ら行動しようとする気持ちが育まれる。チャレンジする意欲・上手くいかないもどかしさ・自分で出来た喜びなど様々な経験をすることで、自己肯定感が育まれる。</p>	<p><b>4歳児</b> 養分補給</p>	<p>異年齢との関わりを持ち、憧れの気持ちや興味関心の幅を広げていく。自分なりに頑張りたい・手助けしてほしいなど、幼児の思いに寄り添い、適切な援助を見極めることが大切。家庭と共有することで、更に幼児の意欲を高め、満足感が味わえるように働きかける。</p>
<p>安心出来る環境の中で、“やってみよう”“楽しそう”“これ何?”“ワクワクする”など、心と体が動き、興味・関心の芽を出す。一緒に同じ経験や楽しさを共にすることで、友達への関心が高まり、遊びや友達との繋がりが広がる。</p>	<p><b>3歳児</b> 芽生え</p>	<p>好き嫌いや個人差が大きく、興味を持つタイミングが人それぞれである。いつ興味関心の芽を出すのか、保育者は幼児の表情・言葉・動き一つひとつを大切に、共感していくことがその後の意欲に繋がっていく。一緒に活動を楽しみながら、人と人を繋ぎ、関係や世界を広げていく。</p>
<p>家庭や保育者の温かさに支えられ、安心できる環境の中で、様々な出会い(初めての経験など)の中で心が揺れ動き、「ビックリ」「面白い」「大好き」など感情が芽生え始める。この出会いが種であり、沢山の種蒔きが科学する心の根底となる。</p>	<p><b>1・2歳児</b> 種蒔き</p>	<p>受容的・応答的な関わりを大事に情緒の安定を図り、安心して欲求を示せる・自由に探索できる土台を作る。一人ひとりがしたいことを表情や仕草から読みとり、じっくり関わる事が出来る環境を整えることが必要。様々な感情の芽生えに保育者が気づき代弁して伝え、乳児が自分の思いや気持ちを自覚するきっかけを作り、興味や関心の芽生えに繋げる。</p>

## 7. 課題と今後の方向性

・今回は、園全体として年齢毎の育ちの道筋を捉え、保育者がどう子どもの姿を捉えて関わっていくことが大切かを探っていった。子どもの育ちはその場その場だけでなく、道筋として繋がっていることを再度認識し、積み重ねていくことで、大きな心の成長になっていることを改めて実感した。幼児部と乳児部の園舎が離れていることで保育者同士が感じていた見えない壁を、どう崩し、互いにより良い保育に向けて進んでいけるようになるかが自園の課題でもあった。今回研究を進める中で、保育者のそれぞれの思いを感じたり、互いに情報を伝え合い、共感したり考えを出し合う時間が増え、対話の大切さを感じる事が出来た。今後、幼児部・乳児部が互いに寄り添い、子ども達の成長と一緒に大切にしていけるよう、この研究での学びを実際にどう保育に活かしていくかが今後の課題であり、目標である。

・【お神輿作り】を通して、地域の方や保護者の方との関わりをきっかけに、新たな気づきや発見を得ることが出来、思考や学びが深まっていった。これからも、保護者や地域の方の協力を仰ぎ、保育の中に巻き込み、子どもの成長と一緒に感じ、園としての取り組みや保育の意図なども感じてもらえるような関係の構築を整えていけるようにする。

・心の動きは、子ども一人ひとりによって小さな物から大きな物まで、ありとあらゆるところで生み出されている。保育者はその瞬間瞬間を見逃さず、認め共感していくことを更に意識して保育を進めていく。保育者一人ひとりがそのことを認識し、園全体で共有しながら、子ども達のキラキラ輝く瞳・ワクワクと弾む心を尊重し、これからも子ども達の「科学する心」を育てていきたい。

【執筆者】 ◎立川美里・渡邊明希歩(研究代表)

坂下美和・川島千津・室井純子・遠藤愛実・大堀未来・小椋沙織・大堀茄穂・横山彩姫・五十嵐樹璃